

# 文部科学省APにより進める岐阜高専のICT活用教育改革 —教育資源を可視化・資産化し、守り・運用し・継続的に発展させる—

岐阜工業高等専門学校

所 哲郎・河村洋子・佐藤健治

## 1 はじめに

平成26年度に採択された本校APは、全国高専で唯一のテーマI・II複合型の大学教育再生加速事業である。毎年開催してきた年度末の公開成果報告会では、高専機構で同時にAPに採択された仙台・明石・阿南の各高専プログラムリーダーに、また、高専機構本部や平成27年度以降のAP事業に採択された徳山および宇部高専の担当者に、機構本部の高専教育改革戦略や各高専のプログラム内容と現状を詳細に紹介して頂き、関係者間でそれらの事業内容と戦略を共有してきた。

## 2 本校AP事業による成果資産

本校APでは、従前の本校の各種教育改善活動をICT化により支援し、発展させることを基本としてきた。形成された教育資産をハード面とソフト面に分けて以下に可視化する。これらの有形・無形の教育資産は引き続き、守り・運用し・継続的に発展できるものと確信している。

### 2. 1 ハード面での教育再生加速事業資産

①ICT接続環境：高専機構による40箇所の無線LANアクセスポイント整備を含めて、全教室のWi-Fi環境を整備した。加えて、体育館やラーニングコモンズ、実験室等、学生の集う学校内全域のICT接続環境を整えた。教育資産は「いつでも・どこでも・だれでも・何でも・どこまでも」利用可能である。

②LMS学修支援環境：高専機構によるBbとは別に、Moodleによる学修支援環境を構築した。全教育課程科目はもちろん、シニアOBによる企業技術者いっ押し課題集や各種外部連携活動など、自己履修登録の活用含め、高専教育の全ての活動を自由に支援し展開できるICT活用学修支援環境が構築された。

③実践技術単位による学修成果可視化環境：各種外部単位など、外部資格や本校学生の学修成果を可視化し自己点検すると共に、全体評価や経年評価が可能な学修成果可視化サーバを立ち上げ全学展開した。学生の獲得ポイントは、約半分が外部評価、残り半分が学内評価とバランスが取れている。

④その他のICT活用教育支援環境：全教室の電子プロジェクター、全学科のクリエイティブコモンズ、情報処理センターの機能拡張、貸与パソコン環境、図書館とキャリア支援室の拡充などを推進した。

### 2. 2 ソフト面での教育再生加速事業資産

①LMS内コンテンツ集：本校AP成果報告書に例示したような、学修支援コンテンツ群が75%の教育課程科目や各種学生参加事業などに構築された。学生の利用率はほぼ100%となり、学生からのコンテンツ充実依頼が届きはじめ、教育改善の高度化と多様な学生への支援が共に行えるようになった。

②実践技術単位データの蓄積：AP前の電気情報工学科の15年間とAP期間の全学科の学修成果データの比較により、高専機構や本校の5年ごとの重点目標が、総合的な学生の学修成果にどの様に反映できているかを定量化できるようになった。また、全学生の電子アンケート結果を教職員で共有することなどで、FD・SD活動の実効性を向上させている。学生から高評価であった授業は可視化され、学科を越えた授業参観など、授業改善のPDCAループが全学的に改善され実効性が向上することとなった。

## 3 さいごに

本校APでは、教職員と保護者および卒業生など、学生教育に関わる関係者全体による学生参加型の教育改革を基本とした。2年前のAP成果報告書のキーワードは「質問力と回答力の育成」、去年のキーワードは「AP成果の資産運用」、そして本年度は「デジタル倫理」である。本校AP事業が事業目的を達成し成果を誇れる取り組みとなったとき、育成された卒業生と育成機関である本校関係者には時代に適応した倫理観が育成できており、SDGsの未来を築くことに寄与できることを確信している。